

令和元年度3学期始業式挨拶

明けましておめでとうございます。令和2年を迎えました。3年生は、いよいよ最後のセンター試験ですね。1・2年生は、来年からの大学入学共通テストに向けての年になります。しかし、恐れることはありません。なぜなら、評価の様式が変わっても、基本的な力は変わらないからです。やるべきことは、基礎をしっかりと身につけ、着実な理解のもとに、演習を繰り返すことです。

さて、昨年末、国際学力調査「ピサ」の結果が発表されました。それによると、日本の学力は全般的には世界トップクラスを維持しているが、「読解力」が有意に低下していると報告されました。

「読解力」は、これからの社会において大変重要な力であり、皆さんにもぜひ身につけて言ってほしい力です。「読解力」とは、複数の文を読んで、その中から必要な情報を読み取り、読み取った内容について自分の考えを表現する力を言います。従来から、「リテラシー」と呼ばれる力の必要性が言われてきました。それは、ただ読むだけの受動的な活動のうえに、読んだ内容について考察し、さらに自分の考えを表現することによって身につくものです。

具体的には、新聞記事を読んで意見をもつ習慣をもつことが重要だと思います。新聞には様々な情報が載っています。その中から、そのときの自分に必要な複数の情報を取り出し、比較検討してそれについての自分の考えを形作るという実体験を毎日行うことが重要です。

しかし、残念ながら、最近は新聞をほとんど読まない人が増えているようですね。本校では、NIE(新聞による教育)を長年に渡って取り組んでいます。生徒の皆さんには、この機会に新聞を読むことの重要性を再認識してもらい、クラスに届く新聞に目を通してほしいと思います。

さて、読解力は社会において特に一つの事業を複数の人と協力しながら完成させるときに必要になります。なぜなら、複数の人が常に同じ考えを持っていることはあり得ないからです。そのような場合に、異なる意見を理解し、自分の考えを互いにぶつけ合い、最終的に納得する結論に到達しなければなりません。そのときに読解力がものを言うのです。

社会においてリーダーシップを発揮して組織を引っ張っている人たちは皆、この読解力を持っています。昨年末に若者の力を紹介しました。若者もさることながら、我々の先輩たちの中に力を発揮されて組織のリーダーになっている人たちがいます。延高卒業の先輩たちで、さまざまな分野で活躍されている方を紹介します。

まず、真栄田雅也氏。彼はキャノンの社長です。現在、67歳で社長になって4年目です。恒中から延高を経て九州大学工学部を卒業されています。

次に、平野亘也氏です。彼は、宮崎銀行頭取です。去年延高で、卒業生講演会を行っていただきました。頭取に着かれて5年目になられます。何と、キャノンの真栄田社長と延高時代の同期です。同じ学年からすごい人物が出たものですね。実は、前の宮崎県副知事の稲用博美氏も同学年なのです。

次に、高橋幸宏氏です。現在、榊原記念病院副院長で、心臓血管外科部長をされています。朝日新聞の一面に特集記事が掲載されました。小児心臓外科手術のカリスマと言われている人物です。

次に、鎌田正彦氏です。現在、SBSホールディング社長です。彼は28歳で起業し、現在の一部上場企業に育て上げました。年商、約1500億円だそうです。

これらの先輩たちに共通していることとは何でしょうか？それは、読解力を持っている以外に、常に挑戦し続けていることだと思います。我々が先輩たちに学ぶこととは、失敗を恐れることなく自分の夢に向かって挑戦し続ける姿なのではないでしょうか。

令和の2年目を、挑戦の年にしてほしいというメッセージを贈り、今年最初の話とします。